

3/4 朝日

# 看護師去る奥能登 医療難路

今年1月の能登半島地震で被災した石川県の奥能登地域にある四つの公立病院で60人以上の看護師が退職したり、退職の意向を示したりしていることがわかった。看護師の総数約400人のうち約15%にあたる。

看護師自身が被災し、生活再建の見通しが立っていない。病院関係者は医療体制が維持できなくなるのではないかと危機感を募らせる。

## 公立4病院 15%退職・意向

### 「家失った」「子育て難しい」

輪島市の市立輪島病院

は地震で医療機器が損壊

した。100人近くいた

入院患者の大半は別の病

院に転院したが、今も約

20人が入院する。1日に

約150人が訪れる。

他の医療機関からの看

護師の応援を受け、何と

か対応できているが、約

120人いる看護師のうち

約30人が退職の意向を

示し、うち10人以上が退

職届を出した。「断水が

続いている生活拠点も確保で

きず、子育てを続けるの

は難い」「子どもが集

中して学べる環境が整う

金沢で職場を探したい」。

退職理由には、そうした

声が多いという。

道路の寸断で通勤が難

しいなどの理由で、空き病棟で寝泊まりしながら働いている。看護師の一人は「これから病院がどうなるのか、不安もある」と口にした。

珠洲市総合病院では約125人の看護師のうち

は相当ある」と説明する。複数の事務員や調理師も退職の意向を伝えている。一方、「病院は子

22人が退職する見通し

だ。石井和公事務局長

(58)は「家を失つた人も

多く、因に見えない負担

は相当ある」と説明す

る。複数の事務員や調理

師も退職の意向を伝えて

いるといい、「病院は子

一ームワーカーで成り立つて

いる。患者数が増えたと

きに看護体制が厳しくな

るかもしない」という。

(西崎智太朗、佐藤道隆)

過去の災害でも、被災後に心的外傷後

ストレス障害(PTSD)やうつ病を発

症した看護師がいた。高橋さんは「ねぎ

らいの気持ちを伝える」と大きな励み

になる。社会からの理解が重要だ」と話

す。(柴田謙一郎)

## 過疎・高齢化「将来集約も」

県内の公立病院を管轄する県地域医療推進室

は、看護師不足への危機

感を募らせる。奥能登地

域の4市町からなる「能

登北部医療圏」は高齢化

率が50%を超えて、県内で

も特に診療所の数が少な

い地域だ。「本来は診療

所が担うかかりつけ医の役割を果たし、地域になくてはならない存在」と

いふ。看護職を続けてもら

る方針を示した。馳浩知

事は「問題意識を共有

し、将来的な病院の集約

を含めた医療体制の強化

策を考える」と話した。

(加治隼人、土井典典)

の退職が相次ぐ。輪島町の「柳田温泉病院」は建物が「全壊」判定を受け、現在は休診中だ。地震後に併設の介護施設の入所者を含む約140人を輸送させた。看護師約40人を含む全職員約130人が退職する見通しだ。石井和公事務局長(58)は「家を失つた人も多く、因に見えない負担は相当ある」と説明する。複数の事務員や調理師も退職の意向を伝えているといい、「病院は子

の退職が相次ぐ。輪島町の「柳田温泉病院」は建物が「全壊」判定を受け、現在は休診中だ。地震後に併設の介護施設の入所者を含む約140人を輸送させた。看護師は自分を犠牲にして患者のために死んでしまうつもりでも、なかなか声を上げられないという。過去の災害でも、被災後に心的外傷後ストレス障害(PTSD)やうつ病を発症した看護師がいた。高橋さんは「ねぎらいの気持ちを伝える」と大きな励みになる。社会からの理解が重要だ」と話す。

## 精神的つらさ背景に

登4市町にそれぞれ立地の病院を離れ、金沢市など県南部の病院に異動での前後減る計算になる」ともある。

県看護協会の小藤幹恵会長(60)は「被災した看護師たちは先が見えない向」の導入を決めた。

過疎と高齢化で、奥能

登4市町にそれぞれ立地の病院を離れ、金沢市など県南部の病院に異動での前後減る計算になる」とある。

機能強化検討会を設置する方針を示した。馳浩知事は「問題意識を共有し、将来的な病院の集約を含めた医療体制の強化策を考える」と話した。

(加治隼人、土井典典)

看護師の退職の背景について、災害派遣精神医療士チーム(D-PAT)に携わる筑波大の高橋晶准教授(災害精神医学)は、「業務量の増加と、精神的につらさを挙げる。被災者からやり場のない怒りを向けられることがある。看護師は自分を犠牲にして患者のために死んでしまうつもりでも、なかなか声を上げられない」という。